

自治基本条例策定に向けた専門部会 源津委員グループ 議事概要

【第1クール】

メンバー：源津委員、佐渡委員、佐々木委員、京屋委員、佐竹委員

キーワード：まちの将来と課題、情報、町民参加、災害

- ・「まちの問題点」では広すぎてピンとこない。課題から入るより理想像を話し合った方が入りやすい。
- ・我々世代と子ども世代が考えるまちの理想像は違う。何人に話を聞いたかが重要。
- ・条例は町民がまちづくりに参加することを難しく書いてある。
- ・町民がまちづくりに参加するための巻き込み方が不十分。
- ・条例の根幹は「情報公開」と「住民参加」の2点。
- ・情報伝達はネットや広報であるが受け取る側の手段が多様化している。
- ・ワークショップに参加する人は毎回ほとんど同じ。一部の人に偏っている。
- ・スマホは相手を限定してしまう。昔の駅の掲示板のように古典的な方法を取り入れてはどうか。
- ・様々な場所で町民の話を聞くが「役場に言っても変わらない」という声を多く聞く。
- ・町民から議員に話をする機会がない。
- ・美瑛町の町内会はきちんと組織している。既存組織の機能を充実させることはできないか。
- ・市街地と郊外で町内会の現状は大きく異なる。郊外は件数が少ないため会費等を含め負担が大きい。
- ・以前、移動町長室（地域に出向いて町長と町民が意見交換）が行われていたが、いつの間にかなくなった。提案してもフィードバックがない。
- ・行政区長会議があるが、町からの説明を聞くだけの場で町民から話をするのはあまりない。
- ・役場と町民の距離が遠い。地縁関係等でつながりがある人は話せるが、今は行政との接点が少ないと感じる。
- ・役場職員はもっと町民と話をする場に参加して欲しい。
- ・町民まちづくり提案事業は良い取り組みである。町民一人一人が提案できることや明確な回答をもらうことができる。
- ・災害情報の発信はとても重要。以前は町のHPから災害情報を検索しづらかったが、最近トップページに災害情報が掲載されるようになった。
- ・まちにとってライフラインの整備は重要。災害情報を的確に受け取ることができるようにすべき。
- ・外から人を呼ぶためには、住んでいる人が離れたくない、住み続けたいと思えるまちでなければならない。町民の幸福度をあげること。

- ・農業や観光が注目されがちだが、医療や福祉、教育を充実させることで誰もが住み続けたいと思えるまちづくりをしていくことにより、自然と美瑛町に関心を持つ方が増えていくのではないかな。
- ・今のまちづくりは住んでいる者に向いていない。行政は縦割りであるが実はつながっているもの。
- ・まちづくり総合計画で行われる町民ワークショップで出た意見は専門部会にも取り入れた方が良い。

【第2クール】

メンバー：源津委員、佐々木委員、山前委員、村上委員、佐竹委員

キーワード：情報発信ツール、条例の特色、町民参加

- ・今のまちづくりに財政的な視点を入れていない。公共施設の更新等の全体計画が作られていないのが問題。
- ・美瑛町の農業景観は守られなければならない。
- ・町の情報発信や町民から提案する方法としてフェイスブックを活用してはどうか。町民は名前を出すことにより発言に責任を持たせるようにする。
- ・専門部会員として参加した過程やワークショップで話し合った内容を議事録として残り公開したほうがいい。ただし個人が特定されないように配慮すべき。
- ・町のラインは情報発信ツールとして有効である。現在913件の登録がある。
- ・町民憲章はどのように位置づけられるものなのか。
- ・条例の中には京都の景観条例や旭川の日本酒条例など特色あるものもある。美瑛町の条例もまちとしての特色を出した方が良い。
- ・行政の裏側も理解しなければならない。現状の課題を突き詰めていく作業と将来目指すべきゴールから逆算して作業を並行して進めていかなければ町は滅びる。
- ・まちづくりに関わっていると町民が実感できる、実感が持てるまちづくり。

自治基本条例策定に向けた専門部会 瀬野委員グループ 議事概要

【第1クール】

メンバー：瀬野委員、新田委員、森部委員、山前委員、村上委員

キーワード：産業、情報（価値・データ）、福祉、インフラ、働く場

- ・役場の資料は横文字が多くてわかりにくい。ミッション、ビジョン、ワークショップ
- ・わかりやすい資料を作成することで参加しやすくなる。
- ・まちづくり委員は様々な職種の方が集まっており、それぞれの課題を共有すべき。
- ・コロナの影響で1つの産業が崩れることですべての産業に影響することがわかった。
- ・本日のテーマは何か？「テーマ」について再度共有したい。
- ・将来の姿と現状の問題、障害になっていること。そのずれについて考える機会。まずは、遠慮なく意見を出し合うべき。
- ・広報を端から端まで読んでいられないような方でもまちづくりに参加している感を。そのためにも情報の出し方や価値について考えるべき。参画してもらうための情報の出し方。
- ・全てを網羅して良くしようとするから進まない。尖ったものを生かし、強み、ポイントを絞る。東川町で言う「水」をテーマにしたまちづくり。
- ・外に向けた情報発信には力が入っているが、町民に向けてまちの魅力を伝えるべき。この町を離れたくないと思えるような。
- ・子供が遊べる場が少ない、障害者支援が遅れている。障がい者が自立して住める環境、居住を。
- ・今までは笛を吹いても兵隊が踊っていない状態。住民が参加していない。
- ・今の状態でもそこそこ暮らせている。主体的に動く必要がない。何のための条例か。
- ・これまでも条例は多くある。自助、共助、公助のバランスが条例に反映される。このうちのどこを目指すのか。これからの地域は共助では。
- ・これからのまちの目指す方向、将来像。農業と観光のバランス。教育、福祉、医療は最低限必要。様々な産業でも共通した課題があるのでは。
- ・人口問題は日本全体が減っており、町の減少も致し方ない。コロナで都心から離れる動きはあるであろうが。働く場の問題。

【第2クール】

メンバー：瀬野委員、新田委員、森部委員、佐渡委員、京屋委員

キーワード：町内会、地域のつながり、情報の発信と受信、町民参加の必要性

- ・地域の直面している問題として民生委員の担い手がない。町内会に入らない世帯が3～4割程度。住み良い地域づくりの義務的役割は果たさなくても生きていける。
- ・無関心な人はどうせ言っても何も変わらないと思っている？
- ・町内会未加入でも防犯、防火、ゴミ収集、街灯などの意識は持っていただく必要がある。受益を受けていることになるので。町内会未加入者はこの考えがない。

- ・ 広報に関しては、町内会未加入でも役場が送付する。入らないことを役場が容認していることになる。
- ・ 1人では生きていけないことを感じられなければならない。
- ・ 三愛のみどり町内会は、町内会未加入の個人から苦情があった際に、町内会単位でしか除雪の要望はできないことを説明して、その世帯の町内会加入に結び付いたことがある。
- ・ コミュニケーション力。発信と受信がうまくかみ合うのか。聞き方が悪いのか、聞いていないのか、言い方が悪いのか、言っていないのか。受信しやすいことが大事。
- ・ 情報の出し方としてLINE、インターネット、広報をうまく使わないといけない。それぞれに適した使い方がある。
- ・ 何のための条例なのかという部分では、地域の声を聞く機会を設けるべき。
- ・ 役場と町民の距離が遠すぎる。町民参加はその距離を縮めること。
- ・ 町民からどういう情報をもらって、役場はどう動いたのか、どう理解したのか、どう判断したのか。情報のコミュニケーションが取れると良い。
- ・ 会議ー納得のプロセス。